

☆岸田国土戯曲賞受賞後、初の新作公演！

ミクニヤナイハラプロジェクト vol.7

「静かな一日」



2005年に吉祥寺シアターのこけら落とし公演をきっかけにスタートした「ミクニヤナイハラプロジェクト」。ダンスカンパニー「ニブロール」の代表・振付家として世界的に高い評価を受けてきた矢内原美邦が始めた「演劇プロジェクト」も今年で7年目、作品数にして7作目を迎えます。

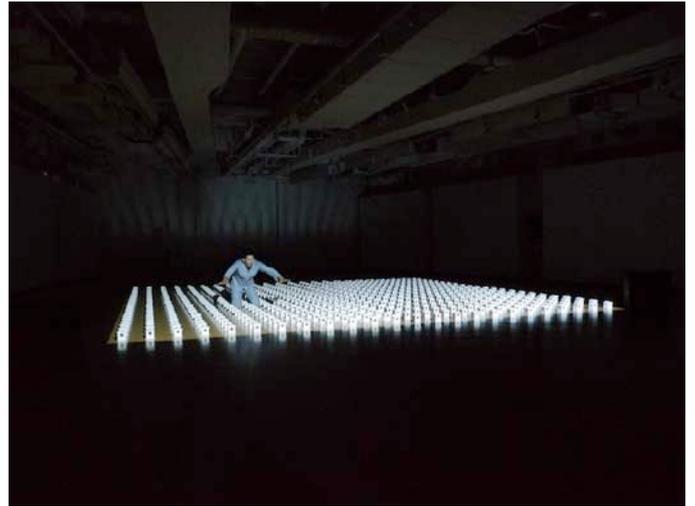
本年は、審査員である野田秀樹氏、岡田利規氏に強く推され、「第56回岸田国土戯曲賞」を受賞。その独特の台詞のもつドライブ感、鮮やかさ、ポジティブさが評価されました。

最新作『静かな一日』では、そのタイトル通り、これまでの過剰なスピードの台詞・演出をやめ、出演者は二人きり、演技・台詞を重視した「静かなお芝居」に挑戦します。

これまで6作品を独自の手法を信じ演劇界に旋風を巻き起こしてきた矢内原が、戯曲賞受賞をきっかけに、再度、演劇の台詞と演出について考え、新たな地平を目指し、東京と伊丹にて発表いたします。是非、ご期待ください。

お問合せ：プリコグ 03-3423-8669 info@precog-jp.net (担当：奥野)

■あらすじ



これは、どこにでもある町の、よく眠ることができる夫婦の、ある静かな一日のお話です。

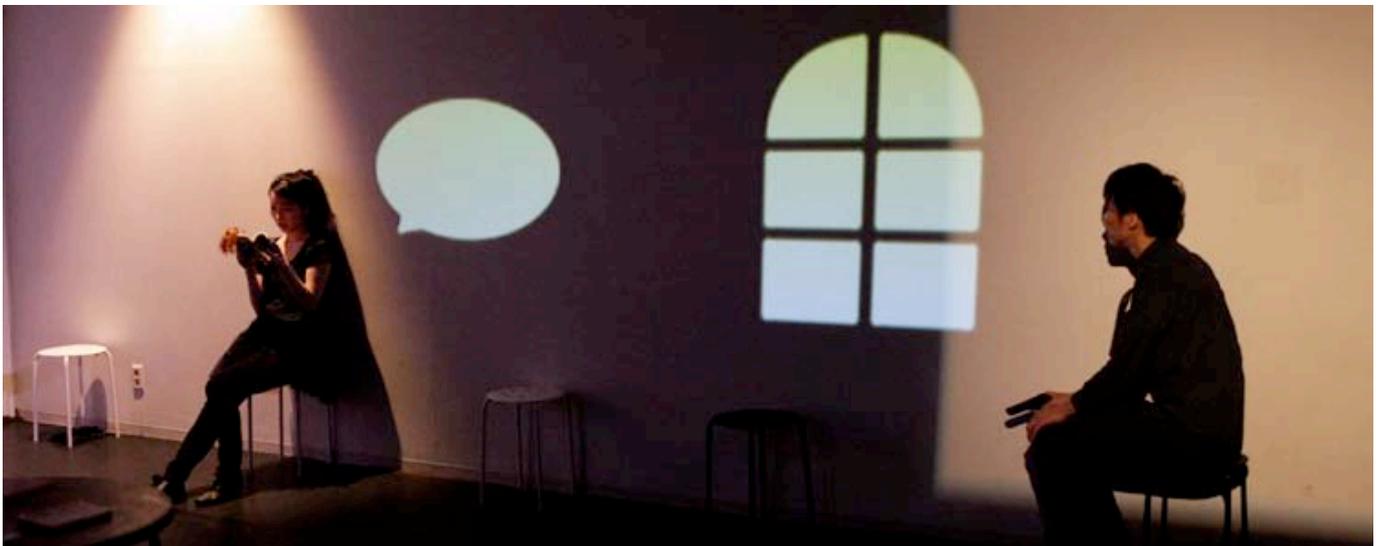
けれども、私たちが住んでいる現実に、静かな一日などどこにもありません。

私たちは後ろ向きになって、徐々に、南に傾いていく家を見上げながら、日陰を選んで、畏れを飲み込み、日々を生きます。

形には決して残らない日々を私達は積み上げて、それでもおもしろおかしく生きるのですね。

※舞台美術では off-Nibroll 最新作「a quiet day」で用いた大量の鳥小屋ひとつひとつにプロジェクションマッピングする、
という新たな手法に挑戦します。

■ミクニヤナイハラプロジェクトとは？



1997年にディレクター集団・ニブロールを設立して以来15年間、代表／振付家として活動してきた矢内原美邦が「演劇作品」を制作することを目的に立ち上げたソロプロジェクト。些細にみえる日常を大胆に切り取りスケッチした物語群の中に、ノスタルジーを喚起する往年の日本アニメへのオマージュや自らが作詞する淡い青春ラブソングを織り交ぜ、意識的に「演劇的」でありながらも、様式に束縛されない手法が注目を集める。その圧倒的な情報量と運動量で知られる舞台では、劇画的にデフォルメされた自己中心的なキャラクターたちが、言葉と体をダンスするかのごとく高速回転させドライブ感に溢れた魅力が生まれる。

05年吉祥寺シアターこけら落とし公演として『3年2組』発表。07年ソロダンス作品『さよなら』で第一回日本ダンスフォーラム賞を受賞。08年『3年2組』で愛知県芸術劇場演劇フェスティバル参加。09年NHKシアターコレクションに出場。10年『前向き！タイモン』でシェクスピア・コンペにて優秀賞受賞。12年『前向き！タイモン』で第56回岸田國土戯曲賞受賞。

■矢内原 美邦（やないはら・みくに） プロフィール



18歳でダンスを始め、全国高校ダンスコンクールにてNHK賞、特別賞など数多くの賞を受賞。大阪体育大学舞踊学科を卒業後、民族舞踊を学ぶためにブラジル各地の大学にて研修。帰国後東京映像芸術学院にて映像制作を学ぶ。

97年各分野で活躍するアーティストを集めた「ニブロール」を結成。代表兼振付家としての活動を始める。日常的な身振りをベースに現代の東京をドライに提示する独自の振付けで、国内はもとより、世界各地のフェスティバルなどにも招聘され、ニューヨークで単独公演を行うなど世界的にも高い評価を受けている。

05年吉祥寺シアターのこけら落とし公演を契機に「ミクニヤナイハラプロジェクト」を始動。劇作・演出を手がける。第56回岸田國士戯曲賞を受賞するなど、演劇／ダンスの両分野で高い評価を得ている。

舞台作品に平行してビデオアート作品の制作も始め、off-Nibroll 名義で映像作家の高橋啓祐とともに活動し、世界各地の美術展にも招聘されている。

■出演者プロフィール



川田 希（かわた・のぞみ）

1975年生まれ。俳優。これまでNYLON100℃、KERA・MAP、劇団☆新感線、劇団本谷有希子などの舞台に出演する他、「踊る大捜査線」、「ストロベリー・フィールド」、「自虐の詩」などの映画や、「世にも奇妙な物語」、「プリティーガール」、「SP」、「臨場」などのドラマ、数々のCMに出演。最近ではプロデューサーとして舞台作品のプロデュースも手がける。



松永大輔（まつなが・だいすけ）

1980年生まれ。俳優。これまでの主な舞台出演作品として、オールツーステップスクール「ラブストリームス・ノートブック」、プリセタ「モノコ」「コミック」、鳥公演「乳水」「家族アート」、オーストラ・マコンドー「東京の空に」「チャイムが鳴り終わるとき」「ロンググッドバイ」などがある。また、2012年4月には映画監督の浅野晋康とのユニット「エマニュエル」にて第一回公演「甘い記憶」を公演した。

■第 56 回岸田國士戯曲賞 選評（抜粋）

私は受賞作の一つである矢内原氏『前向き！タイモン』を推した。言葉がぴちぴちとしてドライブ感を持っていること、一筋縄ではいかない、しかし鮮やかで深いイメージを与えるフレーズが随所にあることなどが好みだったというもある。しかしなにより、描ききろうとしているその枠組みがしっかりと大きかった。私は、そういう作家を今、激しく支持したい気分。今回の前川氏が成功していなかったこと、すなわち大きな枠組みの中に実質を詰め込むということに、矢内原氏は比較的成功していると、私は判断した。この世界この社会の構造の理不尽さに、誠実だがしかし粘りを見せることもなく絶望したりシニカルになったりする、というのとは反対の仕方で、基本的に明るくそれこそ前向き！ に向かい合う。そのとき不可避免的に生じる残酷さについても、これまた明るく引き受けちゃう。そういったこの作品の、責任の高い姿勢も支持したい。権威あるこの賞を授けるのにふさわしいと私は考える。

— 岡田利規

私は今回は、矢内原美邦氏の『前向き！タイモン』を推した。

無責任な言葉の羅列でイメージを喚起させ、無責任にイメージがぶつかり合う。それだけで、ストーリーが紡がれていく。久しぶりに登場した、その種の作家だ。私はこういう作品に演劇の可能性を見る。

近頃のテレビや映画の脚本にも見えがちな一連の、いわゆる巧（うま）い若手の作家群の作品に私は欲求不満である。

この矢内原氏の「例え話」は、どれもこれも面白かった。とりわけ、「農民」が語る『空から落ちてきた子供（りんご）と大きな手』の話は、それだけで壮大な物語にもなるほどのイメージだ。しかも、子供は林檎のことなのだ、と、しつこく繰り返すことで、比喻と言うものをさらに括弧付きにってしまう、これはうまい。しかもこの上手さは、近頃の若い作家の、どこで覚えたのか知らないが、マニュアルのように書いてくる巧さではなくて、伸びやかである。つまり無責任に楽しんで書いている。舞台を好きな人間の現場から生まれてくる、しなやかで無責任なうまさである。と確信する。責任感のあるうまさなど見せられても、わたしは戸惑ってしまう。

そして、ドキッとするようなシンプルで美しい言葉にも出会えた。

「誰かが生きてかった明日が、僕の明日かもしれないから」

「キミとぼくが会おう前に進みだす時計がある」

これらの言葉に貫かれているのは、ハズにしかものを見られない一群の作家（私などはその中に入るのだろうか……）に対する、ポジティブなアンチテーゼであり楽観論である。その意味で、曲者（くせもの）が揃いすぎた選考委員たちの中で彼女の作品が支持されなかったのもうなずける。

— 野田秀樹

■公演詳細

ミクニヤナイハラプロジェクト vol.7

「静かな一日」

2013年2月9日(土) @AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)

2013年2月14日(木)～17日(日) @吉祥寺シアター

作・演出・振付：矢内原美邦

映像：高橋啓祐

出演：川田 希、松永大輔

AI・HALL 公演 (伊丹)	吉祥寺シアター公演 (東京)
日時：2013年2月 9日(土) 14:00 開演 9日(土) 18:00 開演 会場：AI・HALL 兵庫県伊丹市伊丹 2-4-1 TEL: 072-782-2000	日時：2013年2月 14日(木) 19:30 開演 15日(金) 19:30 開演 16日(土) 15:00 開演 16日(土) 19:30 開演 17日(日) 15:00 開演 会場：吉祥寺シアター 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-3-2-2 TEL: 0422-22-0911

チケット：12月8日(土) 発売

前売 2800円/学生 2500円/当日 3200円

(日時指定、整理番号付自由席)

チケット取扱:

プリコグ WEB ショップ <http://precog.shop-pro.jp/>

アイホール TEL: 072-782-2000 (アイホール公演、電話予約のみ)

(公財) 武蔵野分か事業団チケット予約 TEL: 0422-54-2011 <https://yykl.ka-ruku.com/musashino-t/> (吉祥寺公演のみ)

お問合せ:

プリコグ 03-3423-8669 info@precog-jp.net <http://precog-jp.net>

舞台監督：鈴木康郎 照明：南 香織 制作：percog

主催：ミクニヤナイハラプロジェクト 共催：アイホール、吉祥寺シアター

助成：芸術文化振興基金、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団) 特別協力：急な坂スタジオ